

## 国際協力×日常生活

—ちっぽけな自分にもできること—

桜美林大学 3年 又吉麻菜美

3年前、インドやカンボジアで格差の現状を目の当たりにした。しかしその場で何もできない自分がいた。現場へ行き自分の五感で感じることは大事だと思うが、経済的理由で他の地域には行けていない。国際協力は、お金や時間に余裕がある人しかできないのだろうか。

沖縄に生まれ育った私は、社会課題を身近に感じてきた。73年前の地上戦で県民の4分の1が亡くなり、荒れ地で飢え、その後も沖縄県民は日本やアメリカ政府の下で苦しむことが多々あった。今存在するのは基地問題だけでなく、開発と環境破壊、交通や健康問題などもある。高校進学率が全国で一番低く、若年性結婚率が日本一高い。出生率も高いが離婚率も高く、貧困が広がる。私は一人親家庭で、服や教科書、制服などは親戚や友達からお下がりを買って、近所の人たちに助けられて育った。小さい頃から海外の人と関わる機会があり、正義感が強い私は、海外の問題にも関心を持つようになった。そして1年半前からイギリス発祥のNGOに関わり、今年度から大学を編入して国際協力を学び始めた。

国際協力は、生き方であり、社会課題の解決が国境を越えただけだと私は思う。そして海外で起こっている問題が、日本、沖縄で起こっている問題やその構造と似ていることや、繋がっていることもある。

例えば気候変動。海面上昇で住む場所をおわれる人々、干ばつで食料も職も失い、そこから紛争につながる地域もある。その裏で、私は電気や紙を大量に使い、車の排出ガスを出し、環境を破壊し地球温暖化を進めていた。また、大量生産・大量消費社会の象徴とも言われるアパレル産業。生産過程で環境や人への悪影響が大きく、3か国以上を輸送され、その分さらに汚染やCO2排出をしている。ファストファッション化で捨てられる量も多いので、燃やすことで大量のエネルギーを使う。他にも、ダイヤモンドや電化製品なども、資源戦争のもとになっていた。生産者と消費者、海外で起こっていることと私たちの行動の繋がり。先進国の人々が権力を持っていることが多く、影響を受けるのは主に弱い立場の人たち。国際協力を学んでいるうちに、「私は問題を生み出すことに加担している」という意識が強くなった。そして現場に行けないなら、今いる場所でできることをしたいのではないかと考えるようになった。

生まれた地域や環境で、人権を侵され、夢さえ持てない状況がある。私は、自分の大切な人たちが苦しむような社会を未来に引き継ぎたくない。だからこそ、公正な社会にする

ために、問題の原因を探し、改善を促そうとする。消費者として、問題に加担しないよう心がける。

例えば、冷房温度を下げすぎず、電気はこまめに消す。エレベータより階段、自家用車より公共交通をなるべく使う。印刷をするときは、1枚に複数ページを入れ、両面印刷で紙の枚数を減らす。買い物時はマイバック持参、環境破壊や人権侵害をして作られたものを買わない。なるべく長く持つものを選び、貰えるものは貰う。食は旬のものを選び、地産地消を心がけ、肉を減らす。食料廃棄を当たり前にしない働きかけとして、食べられる分買う/よそう/頼む、余ったら持ち帰る。そして大人数での会合などで食が余っていたら、世界の食料格差や環境破壊などについて皆に話すようにしている。日常でできることはたくさんある。他の国のことを理解するために、海外の人と話すだけでもいいと思う。また、学校では、世界の問題の構造や原因、自分たちに出来ることを考えられるようなワークショップやフォトアクションを行い、SNSの発信でも、行動変容を促せるよう努めている。

一人ひとりに、社会を変える力がある。そして“できるときにできることを無理せず続ける”それが私のスタンスだ。誰もが少し意識すれば変えられる範囲から自分が発信、体現することで、一人でも多くの方が問題を認識し、消費行動を変えられるのではないか。私はこれからも学び続け、楽しみながら社会に、自分に、挑戦していく。

(1528字)